平成22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4572000612		
法人名	有限会社　寿幸苑		
事業所名	グループホーム　寿幸苑		
所在地	宮崎市児湯郡新富町大字新田1686番地1		
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000612&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「やさしさと笑顔いっぱい　地域で暮らす寿幸苑」の理念に基づき、安らぎと安全をもって自分らしい生活を営めるように、又、苑外の社会資源を活用しての地域とのふれあいを大切に支援している所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営者、管理者、職員全員で理念について十分話し合い、地域との関連性を重視した新しい理念を作り上げ、その理念を共有して日々のサービスに生かしている。また、前回評価の改善課題であった身体拘束をしないケアの実践や介護計画の見直し等の改善に積極的に取り組み成果を上げている。利用者の高齢化が進んでいるが、職員の心のこもった温かいケアに支えられ、利用者の表情は明るく元気に暮らしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を支援の基本として、事業計画書や行事の中で反映されるよう、実践共有に努めています。	運営者、管理者、職員全員で十分話し合い、地域との関連性を重視した新しい理念を作り上げ、その理念を共有して日々のサービスに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とまではいかないが、地域の区の一員としても登録してもらい、区費や広報などのつながりを持っています。又、地域行事には努めて参加するようにしています。	地域の自治会に入会し、区費・広報誌や運動会等地域の行事を通じ交流がある。今後は、気軽に立ち寄れる場所にするための努力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に特に発信していませんが、時々訪れるボランティアの人には認知症の理解や支援についてのお話をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現況報告･支援状況･事故や課題などの情報を伝え、参加者の意見を聞き、ミーティングなどで検討しています。	新富町をはじめ各行政機関、区長、訪問看護、有識者、家族会で構成され、ホームの状況や問題点を検討している。それらの意見は、職員に報告され、サービスに反映するシステムを作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加、入退所、事故報告などの連絡を取り合っています。	運営推進会議以外にも、入退居に係わる相談や、事故報告等の家族対応について相談する関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ガイダンスを作成し、身体拘束廃絶に努めています。玄関の施錠は残念ながら安全上から今だ開放されていません。	厚生労働省のガイダンスを、寿幸苑用に作り変え、職員に研修している。立地条件の悪い場所のため、やむなく施錠していたが、利用者の行動パターンを研究し、施錠をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員倫理綱領の中で、虐待防止について述べ、ミーティング時に全員で唱和しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、研修等で学んだこと、たとえば社協･包括支援･司法書士等へ相談されることを、必要に応じて家族･職員に話しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	入所時に利用契約書･重要事項説明書により説明し確認印を頂き、家族からの質問に答え納得を頂いています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見はケアプラン作成時や日頃のコミュニケーション情報の中で、家族からの意見は家族会や面会時、ケアプラン作成時等で情報収集し、支援や運営に反映させています。	家族会で、理念と年間行事計画を説明し、意見をもらっている。家族と支援者は車の両輪、「苦情は宝の山」で、改善につながることを伝え、意見が表せる機会を設け運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングを開いており、社長･苑長･全職員参加の中で職員の意見を聞くようにしています。	月１回のミーティングでは、指名制にして意見を出しあっている。また、個別にヒアリングし、悩み、苦情、気になる事項を収集し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	給与関係は介護職員処遇改善交付金の受給により努力しておりますが、ソフト面のやりがいやキャリアパスの環境は不十分と思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各関係機関からの研修会には積極的に参加を推進し、苑内研修も今年度より始めたところです。ヘルパー養成講座にも2名程参加し取得しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくり、相互訪問などはないが、グループホーム連絡協議会の研修会や集会などに参加し、情報を収集し学ぶよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	支援開始時に本人との面談の中で不安や要望を聞き、苑生活への安心感や希望を持ってもらえるように本人への声かけや会話、ケアプランの中に信頼関係の構築を位置付けるようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	支援開始時に、家族の要望事項を聞き、ケアプランに反映しております。又、特にお困りの点にも注意を払い、家族の心境にも留意しているところです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が利用者の支援にどのような支援を求めているのか、何に注意してもらいたいか、どうあってほしいかニーズを把握し、ケアプランに反映しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の皆さんから多々学ぶことが多く人生の先輩として共感と受容の支援の充実を図っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに支援する方針があり、レクリェーションへの家族参加、毎月の個人負担金の苑への持参などで、家族と利用者の絆の確保に努めています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係維持の配慮はなされていません。ドライブで自宅を訪問したり、墓参りに行ったり、一部ですが推進しています。	利用者の認知度が進行しており、なじみの人との関係も途絶えがちなのが現状である。安全確保のため管理者も参加し、職員とペアを組んでドライブや墓参り、自宅などを訪問し、関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が他利用者で気になる人のそばに座っていただくことや、他利用者に関心を持ってもらえるような働きかけを推進しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性は感じるところですが、今だアフターフォローの相談支援はしておりません。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との面談・会話、又は支援員よりもたらされた利用者の要望にはできる範囲で応えるようにしています。困難な場合は、本人に説明し納得していただいたり、他の方法を提案したりしています。	日々の支えあう生活を通して一人ひとりの思いをくみ取り、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や職員で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の人生の背景に何があったのか、プロフィール・アセスメント・家族・本人からの情報により把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活行動パターンは普段の観察の中で、バイタルチェック・夜間の状態・ADLなど業務日誌やモニタリング記録の中から把握に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族・支援員からの要望や課題を見出し、真のニーズとしての最優先課題を介護計画に反映しております。	介護計画作成は、家族や利用者の意向を踏まえ、職員や看護師、関係者のミーティングでアセスメント、モニタリングを繰り返し行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は個別に整備し、日々の支援状況や一ヶ月のまとめの生活状況が記録され、個々人の生活状況の情報の共有と把握に努め、介護計画に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援サービスと言えるかわかりませんが、希望があれば家族の宿泊や利用者の週末帰宅、墓参り等をインフォーマルな支援として実施しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会･地域資源の協働としては、外食（うどん）、買物(ナフコ)、ハイキング(西都原)、役場、農協などへのドライブを計画し利用者の方に楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診･通院は家族により実施され、その病院の判断を家族に委ねております。苑での訪問診療としては、いちき歯科･くらもと医院などがあります。	本人及び家族の希望を大切にし、利用者の身体状況を把握している掛かりつけ医を受診している。ホームの協力医療機関は、地域内の医院や歯科があり、いつでも医療指示が受けられる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑の看護師、訪問看護ステーション（なでしこ）とは密な連携を取りながら報告･相談･アドバイスを受けるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーの情報交換をする程度で、特別な関係作りはない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアを数年前に実施し、病院･訪問看護･家族･支援員との連携に努めたことがあります。他医療機関との連携の中でチームとして機能するには、強力な協力機関が求められ、課題としているところです。	過去、終末ケアに取り組み、結果を残している。終末ケアを受け入れる場合、医療機関とは、協議をしている。今後、方針を共有するための終末ケアマニュアル作成を進めている。	重度化した場合の対応について、今一度本人や家族、関係者と話し合い、方針を統一して意志確認書を作成する等、検討することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応として、看護師→家族→救急車の連絡体制のみで、応急手当、初期対応の訓練は実施されていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を今年度、年6回計画し、夜間想定、総合防災･地震想定の訓練を計画しています。地域との協力体制は今だ未確立ですが、運営推進委員会にて協力体制の方向にあります。	今年度は夜間を想定し、総合防災訓練を計画し実施している。運営推進会議では、区長から総合防災訓練の参加を呼びかけてもらい、地域住民の参加協力で実施している。	夜間、一人勤務での災害時に、安全に避難誘導することができるように、消防団や地域の住民との交流を深め、協力体制をマニュアルに取り込みながら、災害対策を整えることが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員倫理綱領において人間の尊厳を第一と捉え、利用者の心を大切にする声かけや支援に努めています。又、排泄介護などプライバシーにも気配りするように努めています。	個人情報保護規程を設けている。一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自分の意志確認を誘発できる声かけ、支援に配慮しておりますが、時として反省することもあり、職員への注意喚起が必要と思われます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースに合わせ希望に添った支援なのか、見守りなのか、あるいは放置なのか、充分な対応・支援には反省と課題を感じております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	老いを美しく輝かせてあげたい思いは支援員にあると思いますが、余裕が無いのが現状と思います。買物で顔につけるクリームを購入される利用者がおられ、反省させられたこともありました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の加齢化、機能低下、認知症の進行のため、一緒に食事づくりに取り組める利用者は無く、献立の説明などで食事の楽しみや喜びを感じていただけるよう支援しています。	加齢に伴う機能低下で、調理への参加は難しい。職員は同じ食卓を囲み、一緒に献立や、食材について説明したり、聞いたりしながら、摂食の状況を観察し、機能に応じた安全な形態で食事を楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は個々人に合わせ調理され、食事・水分の摂取においてもその日の状態に合わせ支援しています。又、食事・水分補給においても毎日のチェック記録を取るようにしています。栄養バランスは管理栄養士の指導を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施されています。自立支援に向けた口腔ケアはなされていません。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導を一日9回実施し昼間は一般トイレ、夜間はポータブルトイレでの排泄に努め、失禁状況に応じ、おむつの使用を減らすよう支援に心がけています。	それぞれの生活習慣を生かしながら、トイレ誘導を行い、介護用パンツの使用を減らすことに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、食事・水分・乳飲料(ヤクルト等)の摂取、主治医との連携の中で便秘薬や下剤等で対応しており、運動等の対応はありません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	9名の利用者の中で8名が全介助あるいは半介助の利用者で、苑の都合で入浴時間を設定し支援している現状であり、1名のみ好きな時間に入浴していただいております。	利用者の入浴状況は、1名を除き全介助か半介助のため、支援しやすいようにホームサイドで支援のローテーションを組んでいるが、体調の変化や希望があれば、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の心身の状況に応じ、就床や休憩に気配りした支援に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法・用量について把握した支援をしていると思いますが、副作用までは把握できていない状況です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、自分らしく輝いていられる支援に努め、生活の喜びを引き出そうと努力しているところです。強いてあげれば、屋外でのティータイム・絵画・カラオケ・ドライブ・レクリエーションなどです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はありません。行事・ドライブ・通院が唯一の外出機会の状況です。1名の利用者のみ、苑近辺を散歩されています。	重度化が進み職員の介助が必要で、日中の外出支援が厳しい状況にあるが、時には、家族の協力を得たり、管理者が送迎を担当することで、本人の希望に沿った戸外に出かけられる支援をしている。	高齢化が進み日常的な外出は厳しくなっているが、ボランティアや家族等の協力を得て、できるだけ戸外にでられるよう支援していただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は実施していません。今年度より買物支援サービスが行事に入り、金銭感覚や買いたい物を自ら選ぶ喜びを味わう支援を実施しました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方で手紙を書ける人も無く、実施されていません。電話は要望があれば対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良い生活空間として整理・整頓・清潔、又、季節感を味わっていただける装飾などに気配りした支援に努めています。	周りの田園風景を生活空間として取り込み、四季折々の様変わりが、居ながらにして感じられる。対面式厨房で、食堂の利用者との会話や懐かしい台所のにおいや音が漂い、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人、気になる人の居場所を隣同士にするなど配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入苑時に、家族になじみの品を持ってきて頂くよう協力願っています。又、家族写真なども居室に貼ったり工夫しています。	居室には利用者の使い慣れたものや、好みの物、写真が持ち込まれ、居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドでの立位補助具とか、手すり・歩行器・ポータブルトイレなどの活用で自立支援サービスに努めてはいますが、まだまだ不十分と思います。		